

夢を実現させた団体・組織名等
由栗交流会

実現した夢部門

イベント 大栗川キャンドルリバー2015
活動名称

第 1 回

開催期間 2015年 2月14日

1 日間

開催場所 大栗川公園・大石やかた公園・松木えのき公園・由木緑道

(東京都八王子市堀之内・松木)

【実施概要】

旧由木村(八王子市東部地区)の中心を流れる大栗川・太田川沿いの緑道(由木緑道)とそれをつなげる3つの公園を拠点として3万個のキャンドルを並べました。

- 1.地域団体・教育機関・企業・NPOなどの方々、当日参加の地域住民の方々によるキャンドルの配置
 - ・由木緑道には緑道の両側にキャンドルを並べ、光の回廊を演出しました。
 - ・大栗川公園(メイン会場)には由木村の自然を表す花や鳥の模様を並べて灯しました。
 - ・地域の小学生や学童保育所の生徒さんが絵を描いてくれた紙コップをメイン会場に並べました。
 - ・松木えのき公園は、由木村11村をイメージしたキャンドルを並べ、起伏のある地形を生かした演出をしました。
 - ・大石やかた公園には間伐した竹を利用した竹のオブジェを並べて灯し、幻想的な竹林のイメージを演出しました。
- 2.イメージキャラクター(キャンドルちゃん)と地域の小学生による点灯式を行い、皆様に火を灯していただきました。
- 3.バレンタイデーに合わせ、カップルで参加された方に先着順で地元企業から提供された花苗のプレゼントを企画しました。

【「夢」のアピールポイント】

旧由木村が八王子市に合併して50年が経ちます。

多摩ニュータウン開発で、多くの方々がこの地へ越してこられました。昔から住んでいる方々と新しく越してこられた方々との交流の場はあまりありませんでした。

また、新しく越してこられた方が、この地が由木村と呼ばれていたことなど地域の歴史や文化を知る機会、触れる機会がなかなかないのが現状です。

そこで私たちは、「昔からこの地に住み、この地の自然や文化を守り続けてこられた人々の思い」と、「新たにこの地の住民となった人々」とのつながりを大切にし、双方住民の交流の輪を広げていきたいとの思いで、これからの50年への未来に向けて、「大栗川キャンドルリバー2015」を開催しました。

地域住民が集まり、由木村の「由」と大栗川の「栗」を合わせて「由栗交流会」というグループを作り、当団体を中心として、由木村の中心を流れる大栗川沿いの緑道とそれを結ぶ3か所の公園で3万個のキャンドルを灯し、光の回廊を演出するイベントを開催しました。

地域からは多くのボランティアの方々が参加していただき、思い思いの配列で、キャンドルを並べ、個性豊かな情景を表現することができました。

キャンドルに絵を描いてくれた地域の小学生や学童保育所の子どもたちも、自分が描いたキャンドルを見つけて大喜びでした。

各町会では夏祭り等のイベントはありましたが、複数の地域が一堂に会する機会ができたことも新しい試みとなりました。

今後も、旧由木村と言われるこの地域の活性化、住民同士の交流創出、そして将来を担う子どもたちが誇りを持って、新しい地元とのイベントとして根付かせ、未来へ育んでいくイベントとなるように続けていきたいと思っています。

夢を実現させた団体・組織名等
小幡緑地冒険遊び場の会

実現した夢部門

イベント **小幡緑地冒険遊び場**
 活動名称

第 回

開催期間 2013年 4月 1日 ~ 2015年12月 1日 約100 日間

開催場所 **小幡緑地** (**愛知県名古屋市**)

【実施概要】

小幡緑地冒険遊び場は、「子どもから大人まで自分で考えて自由に遊ぶ」を大切にした、誰もが主役の遊び場です。倉庫にある(かなづち・のこぎり・ロープ・木材・くぎ・おなべなどいろいろあります)を使って、自分で考えて遊びます。子ども達が自由にのびのび遊びえる環境が作りたかった地域の親たちが運営しています。最近では高齢者の参加も有、一緒に遊んでくれます。子どもの頃に戻っているような世代の交流の場になっています。

竹林の竹を切って秘密基地を作ったり、ロープでターザンごっこ、大きな樅の木にもすいすいと登っていきます。また木工も人気でのこぎりを使い、普段家でできないような遊びを体験しています。この際見守る大人達は、「あぶない」などの禁止言葉はぐっとこらえて見守っています。

【「夢」のアピールポイント】

愛知県営小幡緑地本園の児童園は、木製遊具が撤去されてから何年も放置され、児童園とは名ばかりの、誰も遊ばないような林になっていました。もっと自由に子どもを遊ばせてあげたいと思っていた、まとめ役中村が愛知県へ問い合わせをしたのがきっかけでした。冒険遊び場(プレーパーク)を開催するには、所有者である県の許可が必要だと考えたからです。最初は週末開催をスタートさせて、都市整備協会、公園管理事務所と打ち合わせを重ね、トイレ横にある道具置き場を借りることができました。これにより、月・木の放課後の時間帯に開催することができるようになりました。小学校でロコミが広がり、学校帰りの子供たちがたくさん遊びにやってきます。静かだった公園に活気が戻ってきました。管理事務所との連携をしたことで、子どもが安心して遊ぶ環境が整いつつあります。行動すれば夢はかなうんだと実感しました。

夢を実現させた団体・組織名等

北大江たそがれコンサート実行委員会

実現した夢部門

イベント 北大江たそがれコンサートweek

活動名称 「北大江公園たそがれ野外コンサート」10周年！

第 10 回

開催期間 2015年10月10日

～ 2015年10月16日

2

日間

開催場所 北大江公園

(大阪府大阪市中央区)

【実施概要】

大阪の都心にある北大江地区では、人口減が続き、地域コミュニティも衰退が進んでいました。危機感を持った住民有志により1998年からまちづくり活動が始まります。その一歩目が荒廃した北大江公園での清掃や植栽の手入れなどの活動でした。住民参加型ワークショップを経て、公園は2006年に再生します。それを記念して、公園の芝生広場を舞台にはじまったのが「北大江公園たそがれ野外コンサート」です。きれいによみがえった公園で、まちで暮らし、働き、学ぶ人たちが出会い、つながる機会が持てないかという想いが発端でした。

コンサートは翌2007年から定期化、週間開催化し、開催場所も飲食店や企業のロビーなど公園外へも広がりはじめます。地域に集積する楽器商・楽器工房とのつながりも生まれ、その協力により多彩な演奏者による多様なプログラムが組まれるなど、野外コンサートの魅力も増していきます。そして今年は10年目の公園野外コンサートを迎えることが出来ました。

野外コンサートはコンサートweekの金曜夜に開催していますが、今年はオープニングの10月10日(土)も野外コンサートを開催し、16日(金)のたそがれ野外コンサートと合わせて2回公園で演奏機会を設けました。楽器商・楽器工房が扱うバイオリン、ハープ、アコーディオン、マンドリンなど地域性豊かな楽器を中心としたプログラム。地元の大阪市立東中学校吹奏楽部の出演。そしてつながりのなかから生まれた北大江特別編成「le stelle di 北大江オーケストラ」の演奏と、地域の魅力を伝える場になりました。コンサートweek最終日には演奏者や楽器商関係者などによる公園清掃も行われるなど、公園とまちを大切に想う気持ちが、つながりとともに広がる事業になっています。

【「夢」のアピールポイント】

【工夫したこと】

◇地域主体・住民主体の継続

プロモーター等専門業者に頼らず、住民と地域内の楽器商、演奏家などで企画・運営の一切を行い、親しみやすさを維持しています。

◇「地元」にこだわったプログラム展開

地域内の楽器商が扱う楽器、地元出身の演奏者など、地域性を重視したプログラム展開を図っています。

◇公園清掃など年間を通じた活動への誘い

コンサートを機に、公園の清掃や花壇の手入れなど、年間を通じた活動へ出演者や来場者を誘うよう努めています。

【得られたこと】

☆公園への意識や愛着がアップ！

10年を経て、住民やまちへ通う勤労者、学生など、地域に関わる人たちの公演への意識や愛着がアップしてきました。

☆公園を通じたつながりのアップ！

企画・準備・実施のプロセスに参画することで、公園とまちを大切に想うメンバーと、自然につながることが出来ています。

☆公園とまちを大事にする力がアップ！

公園清掃や地域内の美観維持、防災行事など、公園とまちを大事にする活動への参加者が多様化し、地域力が高まりました。

夢を実現させた団体・組織名等
NPO法人 日本渚の美術協会

実現した夢部門

イベント 海の環境工作教室@福岡
活動名称

第 回

開催期間 2015年 9月26日

1 日間

開催場所 国営海の中道海浜公園

(福岡県福岡市)

【実施概要】

私たちは「美しい海を次世代に引き継ぐ為に」全国の海岸で美化活動をしています。海岸でゴミを拾い工作材料になりそうな物は持ち帰り、アート作品を作ります。海から生まれたアートなので「sea born art・シーボーンアート」と名付けました。ゴミ拾いが楽しい宝探しに変わります。そして自身で拾い集めた材料で世界で一つだけの作品を作ります。出来た作品はまさに「海からの贈り物」です。活動の最後に皆で展示会をします。作品の数だけ海がきれいになりました。作品を前に、「ゴミをポイ捨てしない仲間」宣言もしてもらいます。この時の子供たちの誇らしげな笑顔がとても素敵なんです。ゴミ拾い体験をすると、ゴミをポイ捨てない仲間になってくれるようです。この「拾う」～「作る」～「見せる」の一連の活動を通じ、海浜環境の現状を「学び」海に対する優しい思いやりの心が育まれることを願って活動を続けています。

【「夢」のアピールポイント】

全国で海岸清掃をする中で、一般人が立ち入れない海岸があると知り、その海岸はどんな状態なのか？どんなゴミが落ちているのか？などワクワクする夢が広がりました。現地を見学時に実際に赴いてみると、一般の海岸で散見されるポイ捨てゴミは皆無で、大量の漂着ゴミで溢れていました。しかも眼前は玄界灘。大陸からの見慣れない文字のゴミがたくさん目に留まりました。まさに「海からの贈り物」の宝庫である大変嬉しく思いました。(ゴミが一杯あると嬉しいなんて変ですネ)美しい砂とゴミの対比が衝撃的でした。この時、一般の方たちにも是非この事実を知ってもらいたく思い本イベントを計画しました。清掃時には私達運営側はモチロン、参加者の方々もこの異空間での活動が実現できて、大変意義あるものになりました。工作教室も素敵な会場が借りられて、充実した一日を楽しく過ごすことが出来ました。運営に関し公園のスタッフさんたちも親切にご対応下さり感謝の念が絶えません。市内からもほど近いこの海岸の情報を少しでも多くの方々に発信し、あの美しい夢の空間を公園管理者と共に次世代の子供たちに残していきたいと願ってやみません。

夢を実現させた団体・組織名等
環境教育事務所エム・企画工房

実現した夢部門

イベント 活動名称 **かさだひろば楽しい森のようちえん**

第 2 回

開催期間 2015年 4月26日 ~ 2016年 2月28日 10 日間

開催場所 **国営木曾三川公園かさだ広場** (**岐阜県各務原市**)

【実施概要】

自然は子どもたち生きることに必要なほとんどすべてのことを学べるだけの教材を用意してくれています。運動させ、神経を機敏にさせ、考えさせ、判断させます。待つことや辛抱すること、驚くこと、愛すること、協力することなどを感覚的に学ばせてくれます。この「もりのようちえん」で子どもたちに本当の自然とふれあう楽しさを体験して欲しい。そして手のひらにのせた虫さんの動きに感動する子ども時代であって欲しい。子どもたちにいっぱい感動を与えたい。自然あそびを目いっぱい楽しんだ子どもたちの心の中には“緑の種”がしっかりとまかれます。

プログラム概要(こんなこと行います)

毎回「ねらい」を持ったメインプログラムと自然あそび、クラフト、絵本や紙芝居、レクリエーションゲーム、おやつタイム等をまじえた90分間です。

対象年齢： 2歳からの未就学児童(小学校入学前)、親子参加(子どものみの参加は不可)

参加者数： 子ども15名(年間会員制)午前2チーム・午後2チーム(合計63名で実施)

開催時間： 午前10:30~12:00(90分)2歳児~3歳児・午後1:30~15:00(90分)4歳児~5歳児

【「夢」のアピールポイント】

海外のことわざに「聞いたことは忘れる。見たことは思い出す。体験したことは理解する。発見したことは身につく。」というものがあります。この「森のようちえん」で体験と発見をいっぱいして欲しいです。毎月テーマにそったプログラムを実施するたびに子どもたちだけではなく親さんもそのたびに感動し、驚き学んでいただける姿を目の当たりにし、私たちも成長させられます。また元気もいただけます。回を重ねるごとに出席数も増えてきています。驚くことにご夫婦ともに参加される家族も増えてきています。この森のようちえんの副産物とした幼児教育者向けの保育ナチュラリスト養成講座も実施でき、反響も公立保育園から現場の保育士にもと、講師依頼もありました。1時間の持ち時間を延長するほど反響が大でした。幼児にも、保護者にも、教育者にも自然が大好きになってほしい。・・・私たちの達成したい「夢」

夢を実現させた団体・組織名等
 こだいらサーカス

実現した夢部門

イベント **こだいらサーカス(春場所)**
 活動名称

第 8 回

開催期間 2015年 03月 28日 ~ 2015年 03月 29日 2 日間

開催場所 **小平中央公園** (**東京都小平市**)

【実施概要】

小平中央公園・噴水広場や雑木林での
 パントマイム・アクロバット・ジャグリング・ダンスなどの大道芸ショーと体験。玉乗り・綱渡り・ブランコなどのサーカス体験。
 パフォーマーが鬼に扮しての「鬼ごっこ」など。
 昨年秋(11月)からの開催で
 通算8回の開催で2015年6月から「ツキイチこだいらサーカス」と命名し毎月一回の開催(9月は二回)。
 本年11月は「こだいらサーカス秋場所」と称し、
 週末のパフォーマンスを中心に、平日も含め一か月丸ごと公園の使用許可を市に申請し受理、開催決定の運びとなる。

【「夢」のアピールポイント】

わたくしジロー今村は、東京都小平市を拠点に全国各地をまわる旅芸人です。3児の父親です。
 おかげさまで日本全国のご縁や友情をもとに楽しく生きさせてもらっています。
 全国各地で活動できるチャンスがあっても、なかなか自分の地元、小平市では思うような活動はできてませんでした。
 楽しく生きる経験・体験を提供するパフォーマンスで地域に貢献できていないもどかしさがありました。
 そこで、いつもの近所の公園で、ごく近い近所の方々・子供たちに本物の・本気の大道芸を魅せてあげたいと願い、
 「こだいらサーカス」を自分一人で立ち上げました。
 近所のお父さんお母さん、仲間の大道芸人の力を借りて、毎月一回のペースで開催しております。
 プロのパフォーマーを介して、大人も子供も分け隔てなく一緒に同じ時間を共有し、楽しみ遊ぶ。
 仲間であり、人生の先輩後輩でもあり、本気の姿の大人たちに憧れ夢を見る。
 未来を担う子供たちに「楽しい大人になってもらいたい」そう願って続けてます。
 おかげさまで地域の人たちが仲間のようにつながっていく実感があります。
 同じ時代を生きる仲間！
 そう思えたら最高。
 地元・小平からつなげていきます。

今回は、「こだいらサーカス春場所」の日程で提出していますが、昨年11月から現在進行形で、これからも継続して開催します。

夢を実現させた団体・組織名等
大阪産業大学 プロジェクト共育 地元のE(いい)

実現した夢部門

イベント 野外映画祭「ザ・夕涼み」公園を地域の
活動名称 「つながり」の場に！短編映像ワークショップのデザイン 第 6 回

開催期間 2015年 9月16日 1 日間

開催場所 大阪府営 深北緑地 (大阪府大東市)

【実施概要】

【実施に至る背景】「ザ・夕涼み」は深北緑地で催される野外映画祭(以後、イベント)です。私達学生(以後、学生)は、地域の郵便局・公園管理者・市民団体・大学が集まった産公民学の実行委員会に毎年参画し、社会人と対等に意見を交わす場を与えてもらっています。学生がこのイベントに携わるようになり今年で4回目。初回は学生が実行委員会事務局を担当し、イベント企画・運営の土台づくりに貢献しました。しかし、回を重ねる毎に企画の固定(マンネリ)化が見え始めました。そこで、学生が新企画を打ち出すことにしました。

【目的】この短編映像ワークショップ(=「つながり企画」)のコンセプトは、「人とつながる トキが繋がる 映画につながる」です。この3つの「つながり」により、イベント来場者同士や運営者の間に、本イベントのコンセプトである「地域のみんなが繋がる機会」という共通意識を芽生えさせることが目的です。

【対象者】イベント来場者

【実施内容】夏休みの思い出を絵とメッセージで画用紙に描き、それらをリレーバトンのように繋いでいく映像を撮影し、編集しました。そして、イベントエンディングで短編映像として上映しました。

【結果・効果】ワークショップ参加人数は53名。この短編映像は当日の限られた時間内で撮影・編集し、上映しました。イベント来場者からは「映ってる！嬉しい！」などの感想を貰いました。また、実行委員会内でも次回への期待の聲が挙がりました。

【詳細】(公式HP)<http://fukakita-yusuzumi.net/>(映像作品)<https://youtu.be/AGUWvfTG3a0>をご覧ください。

【「夢」のアピールポイント】

【夢にかけた思い】

「つながり企画」は、ワークショップ参加者と運営者が一緒になって短編映像をつくったこと、それをイベント来場者全員で見ることによって一体感を醸成できると考えました。また、この企画を毎年継続させ、作品を蓄積すれば、ワークショップ参加者やイベント来場者が閲覧するたびにそのトキの思い出や記憶をたどることができるものとなります。そして、作品に関わった人や場所にまで記憶を広げることができれば、いつかはコンセプトである「夏の風物詩」・「地域が繋がる場」に公園がなると考えました。

【夢を叶えるための工夫】

- ①3時間という限られた時間で撮影から上映の工程を失敗なく実行できるよう、綿密なスケジュールを組みました。
- ②限られた少数メンバーで役割分担し、研修により、不足しているスキルを身に付けました。
- ③効率的に編集が出来るよう、映像班は事前に映像フレームを作り、ワークショップ班は子ども用のサンプル画づくりや撮影方法の事前練習を何度も重ねました。
- ④不測の事態に備え、代替方法を複数考え、準備物を揃えました。
- ⑤facebook等のSNSサービスに投稿する可能性があったため、肖像権等のコンプライアンスを十分に配慮し、公園管理者との事前協議を経て、参加者に承諾書を書いてもらいました。
- ⑥学生間の情報共有と意見交換のため、クラウドやSNSを積極的に利用しました。

【夢の実現により得たもの】

参加者自身が実際に映像に出演することで「参加者もイベントとつながっている」という意識づくりが出来ました。このことから、私達は映像という媒体の力はイベント来場者同士や運営者を結びつける大きな可能性を秘めているということを確認しました。そして、学生が新たな夢にチャレンジすることと、その夢を支えてくれる社会人がいることに気づくと共に、それが実行委員会を元気づけることにつながることを学びました。

夢を実現させた団体・組織名等
NPO法人 ラブ・ネイチャーズ

実現した夢部門

イベント 有機肥料&炭素循環実践体験農場づくりと
活動名称 食農体験イベントの実施 第 3 回

開催期間 2015年 4月 1日 ~ 2015年11月30日 日間

開催場所 浜名湖ガーデンパーク (静岡県浜松市西区)

【実施概要】

浜名湖ガーデンパークの体験学習花壇を活用して、浜名湖岸に打ち上げられる「アマモ」や公園からの植物性廃棄物からつくる「チップ」をたい肥として、畑に漉き込み、無農薬野菜の農場(畑)をつくり、玉ねぎやジャガイモ、サツマイモ等の植え付け体験や収穫体験を行い。ガーデンパーク体験学習館の調理実習室での調理体験と合わせ、農作業と季節の食文化を体験できるイベントを家族対象で実施しました。

【「夢」のアピールポイント】

「海のゆりかご」と言われる『アマモ場』は、浜名湖の水中生物にとって非常に重要な役割を持った水中植物の世界です。しかし「アマモ」は陸に打ち上げられると腐敗臭などの影響で不快なゴミとして処理されている現状があります。化学肥料が現れるまで「アマモ」は浜名湖周辺で農作業に欠かすことの出来ない重要なたい肥として活用されていました。そんな昔ながらの堆肥と活動場所である浜名湖ガーデンパークから出る剪定木のチップなど自然由来の物を循環利用させる場として浜名湖ガーデンパークの学習花壇を畑として活用し無農薬の作物を栽培。農文化と食文化を融合させたイベントを実施することにより、浜名湖周辺の環境(湖の生物や生活)、安全安心な食と農に思いをはせ、環境保全の大切さや命の循環を啓発しています。